

芽室町

山本 正輝

1. 地名の由来・概要

1.1 地名の由来

メムオロ（芽室）現称は「メム・オロベツ」である。元は川の名で川名は発源地から起きている。メムとは泉、池などの意味でオロとは内より、または内という意味で、川の源の泉や池から流れてくる川と解される。一説に「メムオロ」でメとは寒いまたは冷ややか、ムオロとはたまるという意味で、冷水のふち、冷水の池などとも訳される。

図1 芽室町



出所:wikipedia

1.2 概要

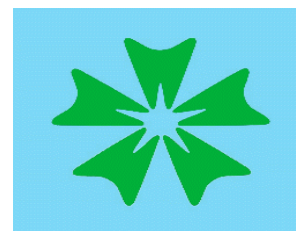
1900年に芽室外6カ村戸長役場を設置され1903年に人舞村外一村戸長役場（現在の清水町）を分離。1906年には芽室村、美生（びばいろ）村、美蔓（びばうし）村、西士狩（にししかり）村、羽帯（ぼねおふ）村の5村が合併し、二級町村制施行、芽室村成立。1915年に伏古村の一部を編入。1919年に一級町村制施行、芽室村、1921年に大字羽帯村と大字芽室村の一部を御影村（現在の清水町の一部）として分離する。1942年に町制施行、芽室町、1949年に大字美蔓村の一部を御影村に編入（御影村字毛根となる）。1953年に町内の5大字を行政字、各町に再編され、1958年は清水町上芽室地区の106戸を編入する。1964年、3月22日市街地中心部で大規模火災が発生（芽室大火）。死者はなかったが89世帯403人が被災、3人の重傷者を出した。しかしそれをバネに高度経済成長の助けを借りて凄まじい復興を見せ、管内でいち早く近代化に成功する。1989年で開基90年記念式典が行われ1999年に開町100年記念式典が行われる。

図2 芽室町



出所:memuro.net

図3 町章



出所:memuro.net

1.3 ゲートボール発祥の地

戦後間もなくの暮れ、ゲートボールの創始者である鈴木和野伸氏は、不思議とウマがあった藤井政治氏を訪ねて芽室町を訪れた。二人は共同でパン工場を興し、パンは飛ぶように売れた。しかし、パンを売り歩いているとき、子供たちが遊ぶ道具もないのを見て、鈴木

氏は「子供たちが楽しく遊ぶ道具はないだろうか…」と感じる。そしてツルハシをみてゲートボールを閃いた鈴木氏は、その日から毎日試行錯誤しながら道具を製作し始めた。はじめは、近所の人たちから狂人扱いされた鈴木氏だったが、藤井政治氏やのちに野球選手として活躍した福家明氏の協力を得て、だんだんと子供たちが集まってくるようになったのである。

2. 地理・地形地質・気候

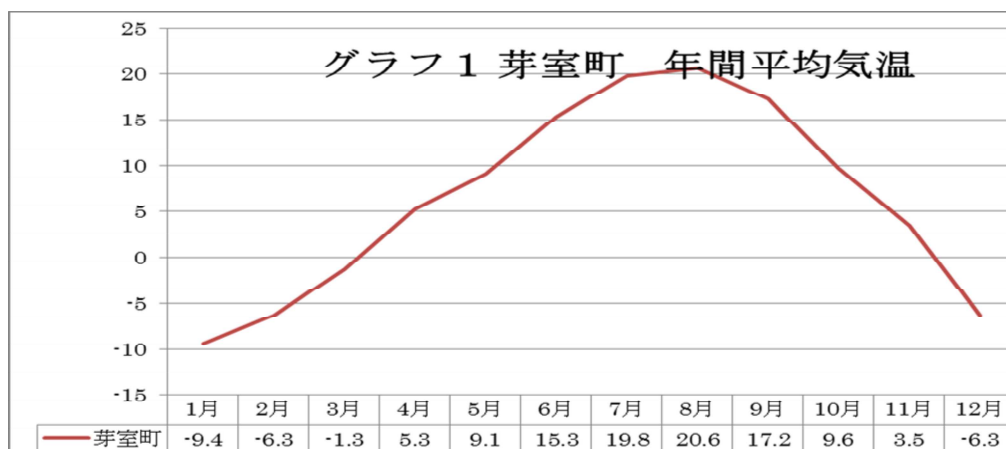
2.1 地理

芽室町は十勝管内のほぼ中央に位置しており、1市4町に隣接している。芽室町は十勝管内のほぼ中央に位置しており、面積は 513.91k m²を有している。南北に 35.4km、東西に 22.6km の広がりがあり、南は帯広市、北は清水町・音更町・鹿追町、西は日高町に隣接している。十勝管内における芽室町の位置は北緯 42 度 43 分 10 秒～43 度 01 分 56 秒、東経 142 度 43 分 13 秒～143 度 09 分 06 秒である。

2.2 地形地質

都市計画区域内の地形・地質は、火山灰のローム台地（ロームと砂岩）が大半を占め、十勝川・美生川・芽室川沿いは、扇状地性低地（砂・礫・粘土）で形成されている。芽室町の都市計画区域内における地形は、火山灰のロームに覆われた下位・中位・上位の台地が大半を占めている。また、十勝川・美生川・芽室川沿いは、扇状地性低地で形成されている。また、その表層地質は、ローム台地がロームと砂岩、扇状地性低地近辺が砂・礫・粘土となっている。 土壌は、大半が黒ぼく土壌であり、河川沿岸が砂礫となっている。また、十勝川と美生川の合流地点は、低位泥炭土壌となっている。

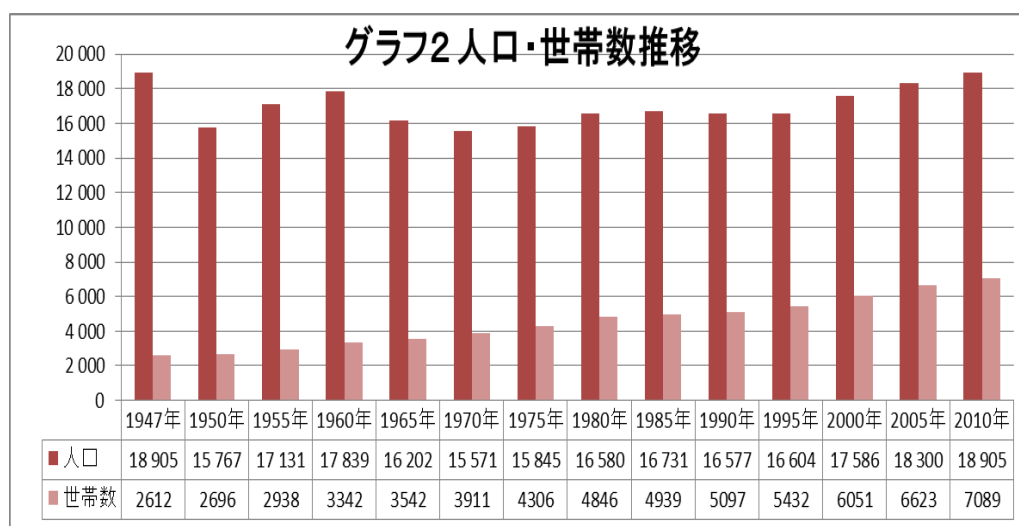
2.3 気候



年間を通して日照時間に恵まれた、降水量の少ない大陸性気候が特徴である。芽室町は、年間を通して道内では有数の日照時間に恵まれており、降水量の少ない大陸性気候が特徴となっている。また、寒暖の差が大きいのも特徴で、夏が比較的高温であるのに対し、冬は大陸性寒冷高気圧により厳しい寒気が続く。しかし、日高山脈で曇雲が遮られることから、降水量は比較的少なくなっている。

3. 人口・世帯数推移

世帯数は増加傾向を示しており、1995年国勢調査では6,623世帯となっている。芽室町の総世帯数は、2005年国勢調査において6,623世帯となっている。過去15年間の推移をみると、芽室町は30%の増加率となっており、同じく増加傾向となっている北海道、十勝支庁よりも高い率を示している。5年毎の増加率の推移をみると、7%(1995年/1990年)、11%(2000年/1995年)、9%(2005年/2000年)と、1995年以降、増加率の高い傾向が続いている。1995年を境に、横ばいの推移を示していた人口が増加に転じ、2005年国勢調査は18,300人となっている。芽室町の総人口は、2005年年国勢調査において18,300人となっている。1990年から2005年までの過去15年間をみると、北海道、十勝支庁ではほぼ横ばいとなっているのに対し、10%の増加率となっている。また、5年毎の増加率の推移をみると、0%(1995年/1990年)、6%(2000年/1995年)、4%(2005年/2000年)となっており、2005年を境にほぼ横ばいの推移を示していた人口が、増加に転じているのがわかる。人口が増加した理由として、近年の宅地造成や、周辺市町村から一定数の転入などにより、微増傾向で推移している。



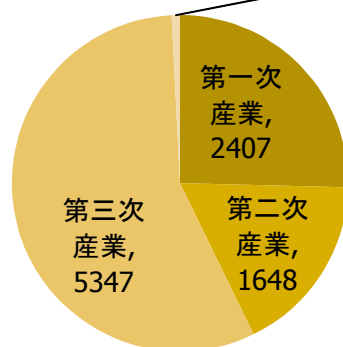
出所:memuro.net

4. 産業

4.1 産業別人口

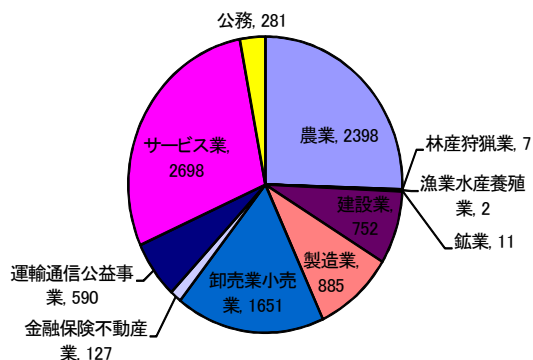
農業は畑作、酪農が盛ん。 スイートコーンの作付面積・収穫量は全国 1 位を誇る。 帯広市に隣接しているため、ベッドタウンとしても発達している。グラフ 3 からは、人口の約 6 割が第三次産業であり、次に第一次産業が多く、第二次産業の人口が一番少なくなっているということがよみとれる。またグラフ 4 からはサービス業の人口が 2698 人でついで農業が 2398 人となっており農業やサービス業が中心ということがわかる。

グラフ3 産業別人口 分類不能, 75



出所：memuro.net

グラフ4 産業別人口



出所:memuro.net

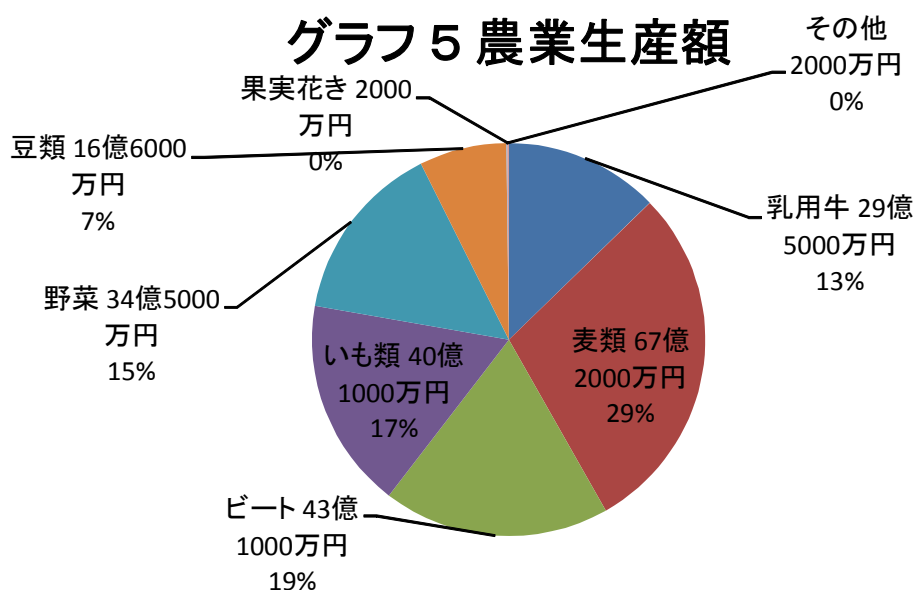
4.2 商工業

本町の商業は 1898 年、小野角次郎が芽室村基線西 14 番地に店舗を構え、酒と少しばかりの日用品を売ったのが始まりである。購買力が高まったのは移民があいついだ 1903 年以後で、いま旧市街跡といわれている国道沿いの一帯は、開拓地にふさわしい市街を形成した。当時の市街が国道沿いに発展したのは、交通の便で、鉄道路線が初めは川北を予定して実測されていたので、この国道を中心とする停車場設置に期待したのも一因だったのだろう。鉄道はこれらの期待に反して現在の路線に決定して、1906 年から芽室駅を基に市街地区画が始まった。1907 年 9 月芽室駅が現在の位置に開業、同年春から新市街宅地 430 余戸の区画が解除されると、旧当時の西谷旅館幸一 340 市街の店舗は先を争って新市街に移った。これより前に毛根に設置された巡査駐在所は、1901 年 7 月に旧市街に移転し、翌 8 月には芽室相乗高台の西谷長蔵借家に移った。芽室尋常小学校は、児童が増加し 1907 年 6 月、高等科が併置されたのを機会に東 2 条 3 丁目の位置に校舎を新築して、1908 年 1 月に落成式と開校式をあげた。こうして本町の中心は新市街に移り、村役場、郵便局のほか十数戸の店舗民家を旧市街に残して、1909 年には 70 余戸の市街地を形成した。市街道路は 1908 年に完成した。鉄道の開通で移民が増加するとともに市況は日毎、月毎ににぎわっていった。本町は鉄道開通と

もに加速度的に発展していった。

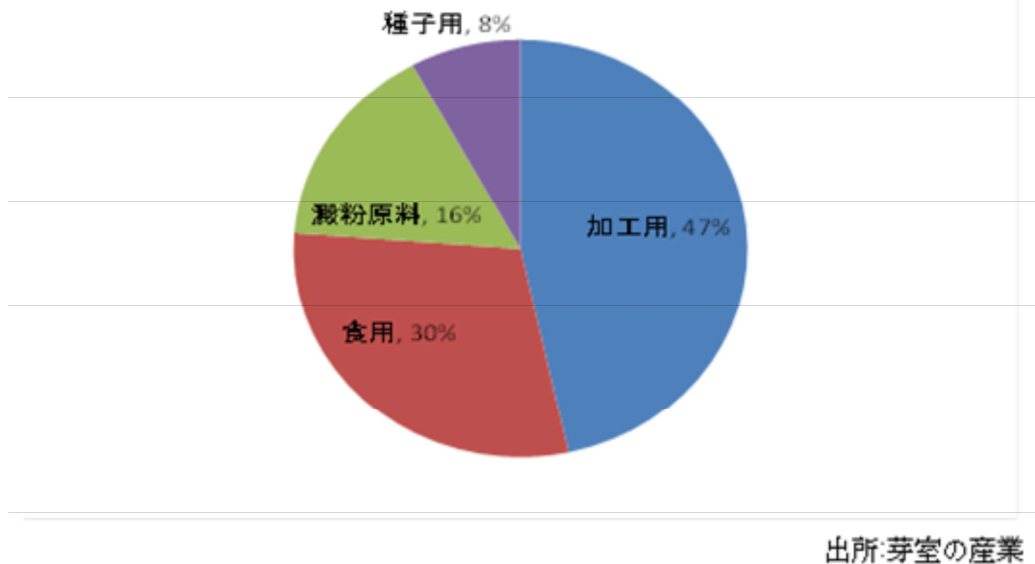
4.3 農業

肥沃な大地と気候条件に恵まれ、芽室町の農業は畑作を中心とした大規模経営を行っている。また近年、長いも、ゴボウなどの根菜類を中心に野菜類の作付が増えてきている傾向にある。芽室町を代表する特に馬鈴薯、小麦、小豆、甜菜、スイートコーンなどは、同時に北海道を代表する作物である。作付面積、収穫量がいずれも北海道でトップクラスに位置し、農業粗生産額も 200 億円を超えるなど北海道でも第 4 位となっている。(2003 年度農林水産統計による) またグラフ 6 は特産品の馬鈴薯の用途別作付面積割合である。農村地帯の集落の近代化を目指し、生産性の高い農業の育成、高福祉農村の建設、言い変えると生産、生活環境の向上を目的として農村総合整備モデル事業が国の補助事業として 1975 年に発足し、本町では上美生地区が同年国から実施地区の指定を受けて事業に着手した。この事業は農業生産基盤、農村環境基盤・施設の事業からなり、当初は総事業費 10 億円を見込み、4 か年ほどで完了の予定でスタートしたが、その後事業などの変更もあり、54 年度には総事業費が 14 億 1,400 万円となった。生産基盤整備では、上美生市街地を流れる農業用水路 1,409m の整備、上美生周辺の農道 5 路線、総延長 9,274m の路盤改良と舗装化工事を進めた。環境基盤整備では、上美生市街の集落内道 8 路線、総延長 1,771m を舗装化するほか、街路灯、街路樹を完成した。一方、集落排水施設整備では家庭の污水排水施設、総延長 2,855m と雨水污水施設、総延長 3,464m を分流方式で整備を進め、終末処理場が同 1976 年に完成し、1978 年 6 月に共用開始された。また、環境施設整備では 1979 年に、建築費 2 億 9,500 万円で農村環境改善センターの建設に着手した。規模は鉄筋コンクリート造り平屋建てで、床面積 1,503 m²、この中には保育所はじめ、診療所、役場出張所などが入り、集会、研修、体育、レクリエーションなど多目的利用の施設である。工事は同年 11 月半ばに竣功して年末に落成式を挙行し利用が始まった。



出所:芽室の農業

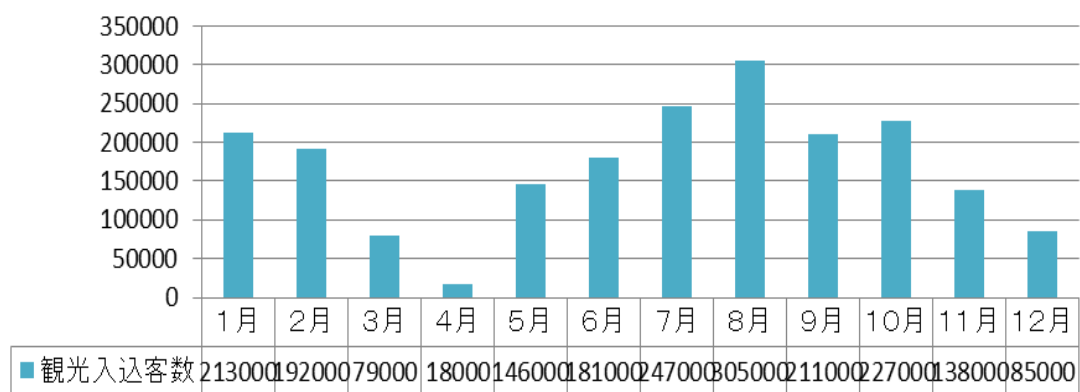
グラフ6 馬鈴薯の用途別作付面積割合



5. 観光

5.1 観光入込客数

グラフ7 2011年観光入込客数



出所:芽室町 観光入込客数

グラフから7月から8月にかけて年間で多くの人を訪れ観光入込客数も最大値を示している。これは、夏に開催される大きな花火大会や花菖蒲園で行われるイリスフェスタなどが影響しているものと考えられる。また、冬にはアイスクャンドルを多く展示している氷灯祭が開催されるなど、イベントが年間通してあると言えるだろう。芽室町の今後の課題として観光客を多く呼び寄せようと様々な取り組みをしている。観光イベントの休

止などにより、来町する観光客は減少傾向にあるが、2005年に芽室町の観光産業振興の新たな手段として、6つの芽室遺産を認定するなど、農畜産物や観光資源の発掘を行い、観光客の誘客を図ってきた。今後、芽室町の貴重な資源である芽室遺産の他、基幹産業である農業を核とした「食」をテーマとする観光及び物産振興を行い、「芽室」のブランド化に繋げ、他地域との差別化を図るようである。このことにより、観光入込客数の増加を見込めることとなる。

5.2 観光名所

5.2.1 新嵐山スカイパーク

新嵐山スカイパークは芽室市街から南へ12km車で15分、帯広市から30分足らずの新嵐山一帯約88haの自然に覆われた広大な地域を利用したレクリエーション基地で、国民宿舎新嵐山荘、メムロスキー場、休憩舎、オートキャンプ場などを備え、テニス、パークゴルフなどのスポーツも楽しめる。冬は雌阿寒岳を望み、後ろに日高連山を背負いながらのスキーは実に快適で、ナイタースキーも思う存分楽しめることから十勝で最も利用者の多いスキー場として親しまれ、また夏は快適に利用いただけるバンガローを備えた「新嵐山オートキャンプ場」の利用者も多く、四季を通して賑わうスポットである。

画像1 新嵐山スカイパーク



出所:北海道・十勝・芽室観光協会

画像2 芽室公園



出所:memuro 観光ガイド

5.2.2 芽室公園

芽室公園は、春にはサクラやエゾムラサキツツジが咲き誇り、夏には滑り台もある噴水が子供たちの歓声で賑わう。ゆったりトイレの隣には観光案内所と売店「コロポックル」があり、冷たい飲み物も販売しており、公園内バーベキューが利用できる場所もある。

5.2.3 花菖蒲

初夏、芽室のまちを彩るのは花菖蒲。芽室公園の西側に位置する花菖蒲園では2.7haの

敷地内に 610 種、2 万 5 千株の花菖蒲が競うように咲き、訪れる人の目を楽しませてくれる。7 月には「イリスフェスタインめむろ」が毎年開催され、満開の花菖蒲のなか日本情緒を味わうことができる。

5.3 イベント

5.3.1 氷灯祭

芽室公園では 2 月 14 日のバレンタインデーの日に氷灯祭というイベントがあり、4 千個のアイスクャンドルがきらめいて、冬の風物詩となっている。バケツに水を入れ凍らせて作ったアイスクャンドルの中でゆらゆらきらめくのはろうそくの炎や雪景色を温かく映し出す幻想的な灯火はとってもロマンティックで一夜限りの夢空間に毎年たくさんのカップルや家族連れが訪れる。

画像 3 氷灯祭



出所:yahoo 画像検索

5.3.2 めむろ商工夏まつり

花菖蒲園でめむろ商工夏まつりという祭が 7 月の第 4 日曜日開催される。自然味あふれる広い芽室公園で、楽しいゲームやステージショー、手づくりの屋台、夜は盛大な花火で賑わう、北国の夏を味わうイベントである。芽室町で行なわれるイベントの中では一番盛大であり、毎年 1 万人を超える来場者で賑わっている。まつり運営は商工会青年部・女性部が中心となり、毎年趣向を凝らした子供対象のゲームや文化協会の歌謡ショー、地元バンドによるライ

画像 4 めむろ商工夏祭り



出所:memuro 観光ガイド

ブなどのステージショーを行なっている。また、ところせましと軒を連ねる屋台は、青年部の焼き鳥にビール、女性部自慢の味噌おでん、そば、うどん、その他町内飲食店の屋台 30 軒ほどがおいしい自慢の逸品を来場者に提供し、どの店も行列ができるほど賑わっている。夜は花火大会があり、花火が迫ってくるような感覚が体験できるほど目の前で打ち上げられる約 2,500 発もの花火は迫力満点である。近距離から花火が見られるのは珍しく、毎年多くの観客を楽しませている十勝管内でも有数の花火大会がこの芽室町で開催されている。

- 芽室町概要:

http://www.tokachi.pref.hokkaido.jp/d-archive/sityousonsi/memuro_gaiyo.html

- 芽室町 wikipedia: <http://ja.wikipedia.org/wiki/%E8%8A%BD%E5%AE%A4%E7%94%>

- 芽室町世帯数推移:

<http://www.memuro.net/tyousei/ken02.pdf#search='芽室町%20世帯数推移>

- 芽室町史:

[http://www.tokachi.pref.hokkaido.jp/d-archive/sityousonsi/memuro_sonotanoanngyou.h
tml](http://www.tokachi.pref.hokkaido.jp/d-archive/sityousonsi/memuro_sonotanoanngyou.html)

- ゲートボール発祥の地:<http://www.memuro.info/img/gateball/rekisi.pdf>

- hokkaido.memuro 観光ガイド:<http://www.memuro.info/kanko.shtml>

- 2011 年観光入込客数総合振興局集計表:

http://www.tokachi.pref.hokkaido.lg.jp/ss/srk/H23nenkan_irikom.pdf